

注文番号: OR230607
報告書番号: R230063_001
2023年10月25日

株式会社新日本石匠 御中

診断結果報告書



株式会社新日本石匠
穀物分析センター
センター長代理 栗林 由香
広島県東広島市西条西本町2-30
TEL(082)420-8714
FAX(082)420-8577

署名者

〔検体情報〕

ご依頼者	株式会社新日本石匠
ご住所	栃木県日光市川室510
検体名	2023年産 コシヒカリ 1
検体識別番号	R230063_001
検体の種類	玄米
ご依頼日	2023年10月12日
検体受領日	2023年10月16日
分析実施日	2023年10月16日～2023年10月25日
分析項目	<input checked="" type="checkbox"/> DNA品種鑑定(定性分析) <input checked="" type="checkbox"/> 内観品質評価 <input checked="" type="checkbox"/> 外観品質評価 <input type="checkbox"/> 残留農薬簡易(68成分) <input checked="" type="checkbox"/> 残留農薬(237成分) <input type="checkbox"/> 重金属(カドミウム) <input type="checkbox"/> 放射性物質(放射性セシウム)



〔診断結果〕

【DNA品種鑑定】
・品種は、DNA品種判定の結果、申告頂いた品種名と一致し、かつ他品種の混入も確認されませんでした。

【内観品質評価】
・タンパク質が標準値内となっており、食味評価は標準よりやや良好となっています。
・水分は最適範囲に入っており問題ありません。乾燥・貯蔵とも適正に管理されていると言えます。
・全体平均との比較においても、すべての項目が同等となっています。

【外観品質・形状分析】
・多少のその他未熟粒*1は見受けられますが、整粒割合は高く特段問題はありません。
・胴割粒は少ないため、乾燥速度は適正であると推測します。

【安全性評価】
・残留農薬分析237成分一斉分析を実施し、対象成分の残留は認められませんでした。
*1 その他未熟粒とは、全体的に充実の不十分なもので、粒が扁平であるもの、縦溝が深いもの、皮部の厚いもの等の成熟していない粒をいいます。

(ご質問等があれば、サタケ穀物分析センターまでお問い合わせください。)

〔注意事項〕
・分析の結果はご提供いただいた検体に対するものであり、それが属する母集団を保証するものではありません。
・DNA品種鑑定(定性分析)とは、検体が想定品種であるかどうか、他の鑑定対象品種が混入していないかどうかを判定するものです。
・本報告書は電子的な報告書として発行されたものであり、印刷されたものは複製されたものです。
・当センターでは、本報告書の取扱いにより生じる一切の問題については、何ら責任を負いかねます。

〔備考〕
*1 2017～2022年に実施したコメドック結果から集計した平均値です。今後も新たなデータを追加し更新していくため、多少数値が変動します。すべての地域の様々な品種を網羅したものではないため、あくまでも参考値とお考え下さい。
*2 分析方法や結果の表示については裏面の安全性評価(オプション)をご確認ください。

DNA品種鑑定 (定性分析)	分析方法	定性分析法(粉碎した検体について品種を鑑定する方法)				評価	
	分析結果	提出検体は「コシヒカリ」と判定できます。				良好	
	備考						
内観品質評価	分析装置	米粒食味計 RLTA10A(サタケ製)				評価	
	分析項目	分析結果	全体平均(参考)*1	偏差値チャートグラフ (全体平均を偏差値50として表示)		評価	
	食味値(点)	76	74.5			やや良	
	タンパク質(%d.b.)	7.5	7.6			普通	
	水分(%)	14.9	14.2			最適	
	アミロース(%)	19.0	19.1			普通	
	脂肪酸度(KOHmg/100g)	14.7	14.3			普通	
備考	タンパク質はドライベース(%d.b.)です。アミロースと脂肪酸度の値は参考値としてください。評価基準は、裏面を参照してください。						
外観品質 ・形状分析	分析装置	穀粒判別器 RGQ1100A(サタケ製)				評価	
	項目	分析結果(重量比/%)	全体平均(参考)*1	項目	分析結果(重量比/%)	全体平均(参考)*1	評価
	整粒	70.3	65.8	着色全面着色	0.0	0.0	整粒
	胴割粒	0.0	3.0	着色粒部分着色	0.0	0.1	高い
	乳白粒	0.6	2.9	被害粒	0.3	0.5	その他未熟粒
	未基部未熟粒	3.3	4.8	被害粒その他被害粒	0.0	0.7	多少あり
	熟背・腹白粒	1.9	1.7	死青死米	0.0	0.1	
	粒青未熟粒	0.0	1.6	死米白死米	0.2	0.4	
	その他未熟粒	23.4	18.4	全粒数	1000	1000	
	項目	分析結果(mm)	全体平均(参考)*1	形状分布		偏差値チャートグラフ (全体平均を偏差値50として表示)	評価
長さ	平均 5.28 標準偏差 0.23	5.17 0.15				やや長い	
幅	平均 2.81 標準偏差 0.09	2.77 0.07				やや広い	
厚み	平均 1.98 標準偏差 0.10	1.99 0.05				普通	
備考							
安全性評価*2	分析方法	GC/MS/MS 一斉分析法				評価	
	分析結果	N.D.				良好	
	備考	「N.D.」とは、この分析方法で定量できる最低濃度(0.01 mg/kg)未満であることを示します。詳細は、別紙を参照してください。					
安全性評価*2	分析方法	蛍光X線分析法 測定範囲: 0.10 mg/kg ~ 0.55 mg/kg				評価	
	分析結果	—				—	
	備考	未測定					
安全性評価*2	分析方法	CsI(Tl)検出器による食品中の放射性セシウムスクリーニング法				評価	
	分析結果	—				—	
	備考	未測定					

『コメドック』診断結果報告書の見方

見本

御中

報告書番号: K●●●●●●

2020年9月30日

診断結果報告書

株式会社 **サタケ**

穀物分析センター
センター長 中原 正晴
広島県広島市西条西本町2-30
TEL (082) 420-8714
FAX (082) 420-8577

番名番

【検体情報】

ご依頼者 ○○○株式会社
ご住所 ○○○市○○○番△号

診断結果

・右の各分析項目から、専門担当者が品質に関する特徴や改善点を分析し、診断コメントとして記載します。

見本

【診断結果】

分析実施日
分析項目

DNA品種鑑定(定性分析) 内観品質評価 外観品質評価
 残留農薬検出(68成分) 残留農薬(237成分) 重金属(カドミウム) 放射性物質(放射性セシウム)

【DNA品種鑑定】

・申告頂いた品種名と一致し、かつ他品種の混入も確認されませんでした。

【内観品質評価】

- ・食味分析は、標準よりやや良好となっています。
- ・タンパク質は標準値内ですが少し高めです。もう少し抑えることができれば、食味向上に繋がる可能性があります。
- ・稈肥の量が多い場合や、効きが遅いとタンパク質含有量が高くなる場合があります。

【外観品質・形状分析】

・外観品質は、整粒比率が高く、着色粒、被害粒、死米比率の低いきれいな米といえますが、やや乳白粒が多いようです。乳白粒は、出穂前後20日間の高温が影響すると言われております。夏季に高温が続く場合は、夜間の用水かけ流しや屋間の飽水管理など、イネの温度を低下させる対策を実施してください。

【安全性評価】

・安全性評価に関する3項目は、全て良好な結果となっており、安全なお米であるといえます。

【注意事項】

・分析の結果はご提供いただいた検体に対するものであり、それが属する自農園を鑑別するものではありません。

・本報告書そのものの複製利用は可能ですが、当センターの許可なく報告書の一部のみを複製して使用することはご遠慮ください。

・当センターでは、本報告書の取扱いにより生じる一切の問題については、何ら責任を負いかねます。

【備考】

※1 2017～2019年に実施したコメドック結果から集計した平均値です。今後も新たなデータを追加し更新していくため、多少数値が変動します。すべての地域の様々な品種を網羅したものではありません。あくまでも参考値とお考え下さい。

※2 分析前後の検体の乾燥状態によって残留農薬検出値(μg/kg)が変動することがあります。

DNA品種鑑定(定性分析)		分析結果	評価
分析結果	抽出検体は「コシヒカリ」と判定できます。		良好

内観品質評価		分析結果	全体平均(参考)	項目	分析結果	全体平均(参考)	評価
食味値(点)	78	70.0	70.0	食味値	78	70.0	やや良
タンパク質	7.9	8.0	8.0	タンパク質	7.9	8.0	普通
水分(%)	14.7	14.0	14.0	水分	14.7	14.0	やや良
アミロース(%)	18.3	19.0	19.0	アミロース	18.3	19.0	普通
脂肪酸度	18.3	15.0	15.0	脂肪酸度	18.3	15.0	普通

外観品質		分析結果	全体平均(参考)	項目	分析結果	全体平均(参考)	評価
整粒率	70.0	70.0	70.0	整粒率	70.0	70.0	◎整粒数
乳白粒	0.0	5.0	5.0	乳白粒	0.0	5.0	◎乳白粒
乳白粒	10.0	5.0	5.0	乳白粒	10.0	5.0	◎乳白粒
基部未熟粒	2.5	5.0	5.0	基部未熟粒	2.5	5.0	◎乳白粒
青未熟粒	1.0	5.0	5.0	青未熟粒	1.0	5.0	◎乳白粒
青死米	1.7	5.0	5.0	青死米	1.7	5.0	◎乳白粒
死米	11.0	5.0	5.0	死米	11.0	5.0	◎乳白粒

形状分析		分析結果	全体平均(参考)	項目	分析結果	全体平均(参考)	評価
長さ	5.23	5.00	5.00	長さ	5.23	5.00	やや良
幅	0.31	0.20	0.20	幅	0.31	0.20	普通
厚み	2.80	2.70	2.70	厚み	2.80	2.70	普通
厚み	0.17	0.20	0.20	厚み	0.17	0.20	やや良
厚み	1.93	2.00	2.00	厚み	1.93	2.00	やや良
厚み	0.11	0.20	0.20	厚み	0.11	0.20	やや良

残留農薬分析(237成分一斉分析)		分析結果	評価
分析結果	基準値を超える対象成分の残留は認められませんでした。		良好

重金属分析(カドミウム)		分析結果	評価
分析結果	N.D.		良好

放射性物質分析(放射性セシウム)		分析結果	評価
分析結果	N.D.		良好

DNA品種鑑定(基本セット)

【定性分析】

・米を粉砕したサンプルを用いて、想定した品種か否かを判定します。

内観品質評価(基本セット)

【食味値(点)】

・実際に食べて評価する官能試験を基本として、その官能食味評価と米の内部構造(成分)の関連性を、永年にわたり研究した成果に基づき食味値を算出しています。数値が高いほどおいしいことを示します。

65	70	75	80	85	
劣	やや劣	普通	やや良	良	極上

【タンパク質(%)】

・米の中におけるタンパク質の占める割合を示します。

・数値が低いほどふっくらとしたご飯に炊き上がり高評価となります。

・タンパク質が多く含まれると、炊飯時にデンプンが水を吸収し糊化する事を妨げるため、硬いご飯になりやすくなります。

・ドライベースとは、水分が含まれない状態(乾物)での米中のタンパク質割合を示します。

・15%換算値とは、15%の一定水分を含んだ場合での米中のタンパク質割合を示します。

・糠、胚芽に含まれるタンパク質含有量は胚乳に比べ多いため、その糠、胚芽を取り除いた精米中のタンパク質割合は玄米に比べて0.5~1.2%低くなります。

ドライベース (15%換算)	6.5 (5.5)	7.0 (6.0)	7.5 (6.4)	8.0 (6.8)	8.5 (7.2)
玄米	低・やや低	普通	やや高・高		
ドライベース (15%換算)	5.7 (4.8)	6.2 (5.3)	6.7 (5.7)	7.2 (6.1)	7.7 (6.5)
精米	低・やや低	普通	やや高・高		

【水分(%)】

・米の中における水分の占める割合を示します。14~15%が最適です。

・水分が15%を超える場合はカビの発生等、米の変質をおこしやすくなりますので、保管に注意が必要です。

・14%以下の過乾燥米は炊飯前の浸漬時にひび割れを起こし、べちゃついたりご飯になります。

12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	
過乾燥	低	やや低	最適	保管に注意	水分過多

【アミロース(%)】

・デンプンの中におけるアミロースの占める割合を示します。

・数値が低いほど粘りがあり高評価となります。

・うるち米デンプンにはアミロースとアミロペクチンで構成されており、もち米デンプンにはアミロースがなく、アミロペクチンのみで構成されています。

・デンプン中のアミロースの比率が低いほど粘りのあるご飯になります。

18.0	18.5	19.0	19.5	20.0	20.5	21.0
低・やや低	普通	やや高・高				

【脂肪酸度(KOH mg/100g)】

・米から脂質を抽出した溶液(酸性)を中和するのに要するKOH(水酸化カリウム:アルカリ性)の量(mg)を米(乾物)100gに対して表したものです。

・数値が高いほど酸化(古米化)が進んでいることを示します。

・酸化の進み具合は米の性質、収穫期、乾燥調製、貯蔵条件等により左右されます。

・脂肪酸が酸化して脂肪酸を生じるのは主に糠の部分で起こるため、米粒食味計ではその糠の部分を含んだ玄米のみ脂肪酸度の測定を行っています。

5.0	10.0	15.0	20.0	25.0
良	普通	酸化		

安全性評価(オプション)

【残留農薬分析】

残留農薬分析には、①簡易分析68成分と、②237成分一斉分析の2種類があります。

① 68成分簡易分析

- ・酵素阻害法を用い、サンプル中に残留する農薬の有無を簡単かつ迅速に判定する簡易分析法です。
- ・対象農薬数は少なく、農薬成分が残留していても、その成分は特定できません。また結果は、農薬検出成分が単一成分と仮定した場合の換算濃度となります。
- ・農薬成分が複数の場合は基準値以下の濃度であっても「基準値を超えている可能性がある」と判定されることがあります。
- ・残留している成分を特定するには、下記の237成分一斉分析を実施してください。

② 237成分一斉分析

- ・農薬237成分をGC-MS/MSを用いて一斉に測定し、**個々の農薬成分濃度を測定**します。
- ・農薬成分を検出した場合においても、基準値を超えていなければ安全と言えます。
- ・単位の「ppm」とは、parts per million(パーツ・パー・ミリオン)の略で、100万分のいくらかという割合を示します。(例:1ppm = 0.0001%、0.01ppm = 0.000001%)
- ・残留農薬分析237成分一斉分析(詳細)の備考欄に記載する「規格基準告示に関する施行通知の運用上の注意」では、その成分そのものだけでなく代謝物や異性体等の和が残留基準と定義しています。
- ・本報告書において※5が記載される成分は、代謝物や異性体が測定できないため、分析結果に含まれていないことを示しています。詳細は、厚生労働省ホームページの「食品、添加物等の規格基準(昭和34年厚生省告示第370号)」をご参照ください。下のURLから閲覧できます。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/shokuhu

n/zanryu/591228-1.html

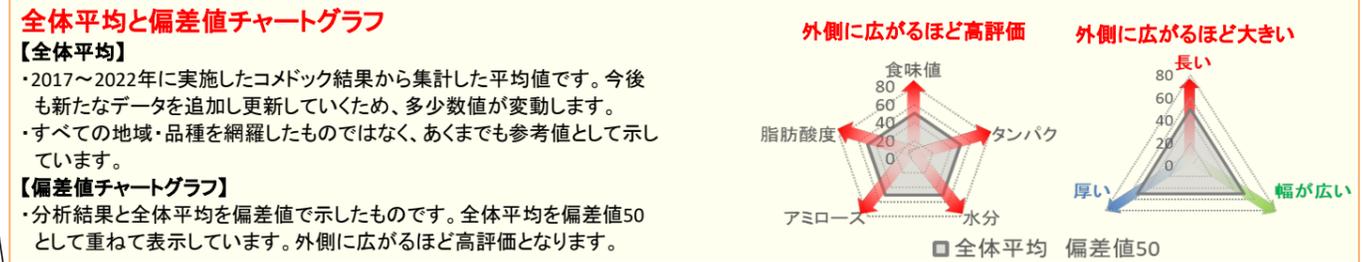
- ・また、「食品、添加物等の規格基準(昭和34年厚生省告示第370号)」に示されており、残留農薬成分の基準値および留意点の一覧を公益財団法人日本食品化学研究振興財団ホームページ内の「残留農薬基準値検索システム」より閲覧することができます。下のURLよりご確認ください。
<http://db.ffcr.or.jp/front/>

【重金属分析(カドミウム)】

- ・蛍光X線分析装置にて、米中のカドミウム濃度を測定します。
- ・食品衛生法における米のカドミウム濃度の基準値は、**玄米及び精米ともに0.4 mg/kg**です。
- ・測定値が0.10 mg/kg以下の場合、「N.D.」(=不検出)と表示されます。
- ・単位の「mg/kg」とは、米1kg中に含まれるカドミウム量(mg)を示します。

【放射性物質分析(放射性セシウム)】

- ・この分析は、「食品中の放射性セシウムスクリーニング法の一部改正について」(平成24年3月1日 厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課)を準用した方法です。
- ・スクリーニングとは、迅速に実施可能な手法を用いて、対象物を含むサンプルを暫定的に選り出すことを言います。短時間で多数の分析を実施できますが、スクリーニングの結果は決定的なものではなく、対象物を含む場合もしくは基準値を超える可能性が示された場合は、詳細分析が必要となります。
- ・平成24年4月1日に施行された食品中の放射性物質に関する基準は、一般食品の放射性セシウムについては、**100 Bq/kg**となっています。
- ・単位の「Bq/kg」(ベクレル・パー・キログラム)とは、米1kg中に含まれる放射能(Bq)を示します。Bq(ベクレル)は、放射性物質が1秒間に崩壊する原子の個数を表します。つまり1Bqは1秒間に1個の放射性壊変をする放射性物質の量を表します。
- ・測定値が25 Bq/kg以下の場合、「N.D.」(=不検出)と表示されます。
- ・測定値は、放射性物質であるセシウム134とセシウム137(原子量134および137のセシウム)との和とした放射性物質濃度となります。



外観品質・形状分析(基本セット)

【外観品質】

・お米1000粒の画像を解析し、下記の項目別に粒数や割合を示します。

玄米		精米	
整粒		完全粒	完全粒
胴割粒		胴割粒	胴割粒
未熟粒	乳白粒	粉状質粒	全粉状質粒
	基部未熟粒		半粉状質粒
	背腹白粒		背・腹白粒
	青未熟粒		全面着色粒
その他未熟粒	着色粒	部分着色粒	
着色粒	全面着色粒	被害粒	損傷粒
部分着色粒	被害粒		その他被害粒
被害粒	碎粒	碎粒	碎粒
	その他被害粒 ^{※1}	異種異物	異種
死米	青死米		異物 ^{※2}
	白死米		

※1 その他被害粒とは、茶米や奇形粒のことをいいます。
 ※2 異物とは、完全粒の1/4未満の砕けている精米粒と穀粒以外のもの(ぬか、ゴミ等)をいいます。

【形状分析】

・米1000粒の画像を解析し、長さ、幅、厚みとその分布を示します。

・形状分布は横軸にサイズ、縦軸にサイズ毎の粒数を示し、ばらつき具合を確認できます。

・標準偏差とは、データのばらつき具合を示す指標の一つです。「平均-標準偏差」~「平均+標準偏差」内に、データの68%が含まれることを意味します。

・一般的に、粒が大きく粒ぞろいが良いほど食感が良くなり、おいしいとされています。

粒のばらつきが大きい → つぶぞろいが悪い
 粒のばらつきが小さい → 粒ぞろいが良い

<別紙> 残留農薬分析237成分一斉分析 (詳細)

単位 [ppm = mg/kg]

No.	分析項目	分析結果 ^{※3}	定量下限	基準値 ^{※4}	特記事項
1	1,1-ジクロロ-2,2-ビス(4-エチルフェニル)エタン	N.D.	0.01	—	
2	2-(1-ナフチル)アセタミド	N.D.	0.01	—	
3	BHC	N.D.	0.01	0.2	
4	γ-BHC	N.D.	0.01	0.3	
5	EPN	N.D.	0.01	0.02	
6	MCPA	N.D.	0.01	0.05	
7	MCPB	N.D.	0.01	0.02	
8	XMC	N.D.	0.01	—	
9	アザコナゾール	N.D.	0.01	—	
10	アジンホスエチル	N.D.	0.01	—	
11	アセトクロール ^{※5}	N.D.	0.01	—	
12	アトラジン	N.D.	0.01	—	
13	アニロホス	N.D.	0.01	—	
14	アメトリン	N.D.	0.01	—	
15	アラクロール	N.D.	0.01	—	
16	イサゾホス	N.D.	0.01	—	
17	イソカルボホス	N.D.	0.01	—	
18	イソキサジフェンエチル	N.D.	0.01	0.1	
19	イソキサチオン	N.D.	0.01	—	
20	イソフェンホス	N.D.	0.01	—	
21	イソプロカルブ	N.D.	0.01	0.5	
22	イソプロチオラン	N.D.	0.01	10	
23	イプロジオン	N.D.	0.01	3	
24	イプロベンホス	N.D.	0.01	0.2	
25	インダノファン	N.D.	0.01	0.05	
26	エスプロカルブ	N.D.	0.01	0.02	
27	エタルフルラリン	N.D.	0.01	—	
28	エチオン	N.D.	0.01	—	
29	エチクロゼート ^{※5}	N.D.	0.01	—	
30	エディフェンホス	N.D.	0.01	0.2	
31	エトキサゾール	N.D.	0.01	—	
32	エトフェンプロックス	N.D.	0.01	0.5	2023/11/22より「0.03」
33	エトフメセート ^{※5}	N.D.	0.01	—	
34	エトプロホス	N.D.	0.01	—	
35	エトリムホス	N.D.	0.01	—	
36	エボキシコナゾール	N.D.	0.01	—	
37	エンドスルファンスルファート	N.D.	0.01	—	
38	オキサジアゾン	N.D.	0.01	0.02	
39	オキサジキシル	N.D.	0.01	0.1	
40	オキサベトリニル	N.D.	0.01	—	
41	オキシフルオルフェン	N.D.	0.01	—	
42	オルトフェニルフェノール	N.D.	0.01	—	
43	カズサホス	N.D.	0.01	—	
44	カフェンストロール	N.D.	0.01	0.02	
45	カルフェントラゾンエチル	N.D.	0.01	0.08	
46	カルベタミド	N.D.	0.01	—	
47	カルボキシ ^{※5}	N.D.	0.01	—	
48	カルボフェノチオン	N.D.	0.01	—	
49	カルボフラン ^{※5}	N.D.	0.01	0.01	
50	キシリルカルブ	N.D.	0.01	—	
51	キナルホス	N.D.	0.01	—	
52	キノキシフェン	N.D.	0.01	—	
53	キノクラミン	N.D.	0.01	0.02	
54	クリミジン	N.D.	0.01	—	
55	クレンキシムメチル	N.D.	0.01	—	
56	クロソリネート	N.D.	0.01	—	
57	クロマゾン	N.D.	0.01	0.02	
58	クロメプロップ	N.D.	0.01	0.02	
59	クロルタルジメチル	N.D.	0.01	—	
60	クロルチオホス	N.D.	0.01	—	
61	クロルニトロフェン	N.D.	0.01	—	

No.	分析項目	分析結果 ^{※3}	定量下限	基準値 ^{※4}	特記事項
62	クロルピリホス	N.D.	0.01	—	
63	クロルピリホスメチル	N.D.	0.01	0.1	
64	クロルフェナビル	N.D.	0.01	—	
65	クロルフェンソン	N.D.	0.01	—	
66	クロルフェンビンホス	N.D.	0.01	0.05	
67	クロルブファミン	N.D.	0.01	—	
68	クロルプロファミン	N.D.	0.01	—	
69	クロルベンシド	N.D.	0.01	—	
70	シアノフェンホス	N.D.	0.01	—	
71	シアノホス	N.D.	0.01	—	
72	ジエトフェンカルブ	N.D.	0.01	—	
73	ジオキサベンゾホス	N.D.	0.01	—	
74	ジクロシメット	N.D.	0.01	0.5	
75	ジクロフェンチオン	N.D.	0.01	—	
76	ジクロホップメチル	N.D.	0.01	0.1	
77	ジクロラン	N.D.	0.01	—	
78	ジスルホトン	N.D.	0.01	0.07	
79	ジチオビル	N.D.	0.01	0.01	
80	シハロトリン	N.D.	0.01	0.5	
81	シハロホップブチル	N.D.	0.01	0.1	
82	ジフェナミド	N.D.	0.01	—	
83	ジフェニルアミン	N.D.	0.01	—	
84	シフルトリン	N.D.	0.01	2	2023/10/26より「-」
85	シフルフェナミド	N.D.	0.01	—	
86	ジフルフェニカン	N.D.	0.01	—	
87	シプロジニル	N.D.	0.01	—	
88	シベルメトリン	N.D.	0.01	0.9	
89	シマジン	N.D.	0.01	—	
90	ジメタメトリン	N.D.	0.01	0.05	
91	ジメチピル	N.D.	0.01	0.04	
92	ジメチルピルホス	N.D.	0.01	0.1	
93	ジメチナミド	N.D.	0.01	—	
94	シメトリン	N.D.	0.01	0.05	
95	ジメピベレート	N.D.	0.01	—	
96	シラフルオフェン	N.D.	0.01	0.3	
97	シンメチリン	N.D.	0.01	0.1	
98	スウェップ	N.D.	0.01	—	
99	スピロジクロフェン	N.D.	0.01	—	
100	スルプロホス	N.D.	0.01	—	
101	スルホテップ	N.D.	0.01	—	
102	ゾキサミド	N.D.	0.01	—	
103	ターバシル	N.D.	0.01	—	
104	ダイアジノン	N.D.	0.01	—	
105	ダイアレート	N.D.	0.01	—	
106	チオベンカルブ	N.D.	0.01	0.2	
107	チオメトン	N.D.	0.01	—	
108	チフルザミド	N.D.	0.01	1	
109	テトラクロルピルホス	N.D.	0.01	—	
110	テトラコナゾール	N.D.	0.01	—	
111	テトラジホス	N.D.	0.01	—	
112	テニルクロール	N.D.	0.01	0.1	
113	テブピリムホス	N.D.	0.01	—	
114	テブフェンピラド	N.D.	0.01	—	
115	テフルトリン	N.D.	0.01	—	
116	デメトン-S-メチル	N.D.	0.01	0.4	
117	テルブカルブ	N.D.	0.01	—	
118	テルブトリン	N.D.	0.01	—	
119	テルブホス	N.D.	0.005	0.005	
120	トリアジメノール	N.D.	0.01	0.5	
121	トリアジメホス	N.D.	0.01	0.3	
122	トリアゾホス	N.D.	0.01	—	

No.	分析項目	分析結果 ^{※3}	定量下限	基準値 ^{※4}	特記事項
123	トリアレート	N.D.	0.01	0.05	
124	トリブホス	N.D.	0.01	—	
125	トリフルラリン	N.D.	0.01	0.05	
126	トリフロキシストロピン	N.D.	0.01	2	
127	トルクロホスメチル	N.D.	0.01	—	
128	ナプロバミド	N.D.	0.01	—	
129	ニトラリン	N.D.	0.01	—	
130	ニトータルイソプロピル	N.D.	0.01	—	
131	ニトロフェン	N.D.	0.01	—	
132	ノルフルラゾン ^{※5}	N.D.	0.01	—	
133	パラチオン	N.D.	0.01	N.D.	
134	パラチオンメチル	N.D.	0.01	1.0	
135	ハルフェンプロックス	N.D.	0.01	—	
136	ピオレスメトリン	N.D.	0.01	1	
137	ピコリナフェン	N.D.	0.01	—	
138	ピフェントリン	N.D.	0.01	—	
139	ピベロニルブトキシド	N.D.	0.01	24	
140	ピベロホス	N.D.	0.01	—	
141	ピラクロホス	N.D.	0.01	—	
142	ピラゾホス	N.D.	0.01	—	
143	ピラフルフェンエチル	N.D.	0.01	0.01	
144	ピリダフェンチオン	N.D.	0.01	—	
145	ピリダベン	N.D.	0.01	—	
146	ピリフェノックス	N.D.	0.01	—	
147	ピリブチカルブ	N.D.	0.01	0.03	
148	ピリプロキシフェン	N.D.	0.01	—	
149	ピリミノバックメチル	N.D.	0.01	0.05	
150	ピリミホスメチル	N.D.	0.01	0.2	
151	ピリメタニル	N.D.	0.01	—	
152	ピロキロン	N.D.	0.01	0.2	
153	ピンクロゾリン	N.D.	0.01	—	
154	フィプロニル	N.D.	0.01	0.01	
155	フェナミホス	N.D.	0.01	0.02	
156	フェナリモル	N.D.	0.01	—	
157	フェニトロチオン	N.D.	0.01	0.2	
158	フェノキサニル	N.D.	0.01	1	
159	フェノキサプロップエチル ^{※5}	N.D.	0.01	0.05	
160	フェノキシカルブ	N.D.	0.01	0.05	
161	フェノチオカルブ	N.D.	0.01	—	
162	フェリムゾン	N.D.	0.1	2	
163	フェンアミド	N.D.	0.01	—	
164	フェンクロルホス	N.D.	0.01	—	
165	フェンチオン ^{※5}	N.D.	0.01	0.3	
166	フェントエート	N.D.	0.01	0.05	
167	フェンバレレート	N.D.	0.01	2	
168	フェンブコナゾール	N.D.	0.01	—	
169	フェンプロバトリン	N.D.	0.01	—	
170	フェンプロピモルフ	N.D.	0.01	0.3	
171	フサライド	N.D.	0.01	1	
172	ブタクロール	N.D.	0.01	0.1	
173	ブタミホス	N.D.	0.01	0.05	
174	ブピリメート	N.D.	0.01	—	
175	ブプロフェジン	N.D.	0.01	0.5	
176	フラムプロップメチル	N.D.	0.01	—	
177	フラメビル	N.D.	0.01	0.5	
178	フリラゾール	N.D.	0.01	—	
179	フルアクリピリム	N.D.	0.01	—	
180	フルキンコナゾール	N.D.	0.01	—	
181	フルジオキシニル	N.D.	0.01	0.02	
182	フルシトリネート	N.D.	0.01	0.05	
183	フルシラゾール	N.D.	0.01	—	

No.	分析項目	分析結果 ^{※3}	定量下限	基準値 ^{※4}	特記事項
184	フルトラニル	N.D.	0.01	2	
185	フルバリネート	N.D.	0.01	—	
186	フルフェンビルエチル	N.D.	0.01	—	
187	フルミオキサジン	N.D.	0.01	—	
188	フルリドン	N.D.	0.01	—	
189	プレチクロール	N.D.	0.01	0.03	
190	プロシミドン	N.D.	0.01	—	
191	プロチオホス	N.D.	0.01	—	
192	プロバクロー ^{※5}	N.D.	0.01	—	
193	プロバジン	N.D.	0.01	—	
194	プロバニル	N.D.	0.01	0.2	
195	プロバホス	N.D.	0.01	—	
196	プロバルギット	N.D.	0.01	—	
197	プロビコナゾール	N.D.	0.01	0.1	
198	プロビザミド	N.D.	0.01	—	
199	プロヒドロキサモン	N.D.	0.01	—	
200	プロフェノホス	N.D.	0.01	—	
201	プロボキシル	N.D.	0.01	1	
202	プロマシル	N.D.	0.01	—	
203	プロムコナゾール	N.D.	0.01	—	
204	プロメトリン	N.D.	0.01	0.1	
205	プロモブチド ^{※5}	N.D.	0.01	0.7	
206	プロモホス	N.D.	0.01	—	
207	プロモホスエチル	N.D.	0.01	—	
208	ヘキサジノン	N.D.	0.01	—	
209	ペノキサコール	N.D.	0.01	—	
210	ペルメトリン	N.D.	0.01	—	
211	ペノコナゾール	N.D.	0.01	0.05	
212	ペンディメタリン	N.D.	0.01	0.2	
213	ペントキサジン	N.D.	0.01	0.05	
214	ペンフルラリン	N.D.	0.01	—	
215	ペンフレセート	N.D.	0.01	0.05	
216	ホサロン	N.D.	0.01	—	
217	ホスチアゼート	N.D.	0.01	—	
218	ホスファミド	N.D.	0.01	—	
219	ホスメット	N.D.	0.01	0.1	
220	ホノホス	N.D.	0.01	—	
221	ホレート	N.D.	0.01	0.05	
222	マラチオン	N.D.	0.01	0.1	
223	ミクロブタニル	N.D.	0.01	—	
224	メカルバム	N.D.	0.01	—	
225	メタラキシル及びメフェノキサム	N.D.	0.01	0.1	
226	メチダチオン	N.D.	0.01	0.02	
227	メキシクロール	N.D.	0.01	2	
228	メミノストロピン	N.D.	0.01	0.5	
229	メトラクロール	N.D.	0.01	0.1	
230	メトリブジン ^{※5}	N.D.	0.01	0.05	
231	メビンホス	N.D.	0.01	—	
232	メフェナセート	N.D.	0.01	0.05	
233	メフェンビルジエチル	N.D.	0.01	—	
234	メプロニル	N.D.	0.01	2	
235	レスメトリン	N.D.	0.01	0.05	
236	レナシル	N.D.	0.01	—	
237	レプトホス	N.D.	0.01	—	

備考

※3. N.D. : 定量下限未満であることを示します。
「定量下限」とは、その分析方法で定量できる最低濃度のことをいいます。